

令和元年度 学校関係者評価報告書

令和2年3月31日

学校法人大原学園

大原和服専門学園

1. 学校関係者評価の基本方針

学園教職員で構成する自己点検自己評価委員会が取りまとめた自己評価報告書をもとに、学校関係者評価委員会を行い、委員の多角的な意見をふまえ、より質の高い効果的な学校運営の改善のための具体案をまとめ、それをもとに組織的かつ継続的な学園運営の改善活動を行うとともに、学園の関係者に当学園の情報を開示し共有することで学園に対する理解と協力を促すこともあわせて目指していく必要がある。

その結果、当学園の社会での認知を上げるとともに当学園で学ぶ学生に対する教育の質の組織的かつ継続的な向上を実現し、学園の社会的な役割を高めていくことを学校関係者評価の基本方針とする。

2. 令和元年度学校関係者評価委員会開催概要

今年度は、効果的な自己評価・学校関係者評価を行うために、項目の見直しをおこない、当学園の実情を反映できる基準項目に変更をおこなった。

第1回

開催日時：令和元年7月20日（土）14：00～16：00

開催場所：大原和服専門学園 2F講堂

委員会内容：1. 報告事項 新パンフレットの説明
2. 効果的な自己評価・学校関係者評価の運営について

第2回

開催日時：令和元年11月 9日（土）10：00～12：00

開催場所：大原和服専門学園 2F講堂

委員会内容：1. 平成30年度自己評価報告書審議

第3回

開催日時：令和2年3月14日（土）14：00～15：40

開催場所：大原和服専門学園 2F講堂

委員会内容：1. 平成30年度自己評価報告書審議

I. 重点目標

特になし

基準 1. 教育理念・目的・育成人材像

特になし

基準 2. 学校運営

●和裁の副次的な学習効果について

和裁は、着物を仕立てる技術そのものをPRすることは難しいが、和裁を学ぶ過程で人間性を高めることができる。運針をすることで落ち着きを作り、集中力を身に付けることもできると感じる。

(学園の方針)

和裁の技術を習得する過程で、人間性を養っていることも意識し、特に1年背の指導に活かしていきたいと考えている。

基準 3. 教育活動

●これからは「人と人が接して人が育つこと」を教えていくことが大切である。仕事を嫌々するから問題になるのであって、楽しければ問題にならない。学生のやる気をひきだすことが一番の課題だと思う。

(学園の方針)

学生のやる気を引き出すことは課題があると感じている。オリエンテーションを強化するなど対策を講じているが、やる気を引き出す授業のありかたを今後とも充実させていきたい。

基準 4. 多様な学生の受け入れ

特になし

基準 5. 産業界との連携

特になし

基準 6. 就職進路

●本来なら和裁を仕事としてすることがベストだが、別の仕事をしながら並行して和裁をする人も多い。多様な和裁の仕事の有り方を伝えていくことも必要ではないか。

(学園の方針)

在宅で一人で仕事をするには様々な点で課題もあり、色々な形態を模索して和裁を続けることができる働き方なども発信していく必要がある。また、学園に残り技術を継続する道も充実させていきたいと考えている。

●和裁の技術評価と収入について

和裁は努力したから時間が半分になるわけでもなく、伝統的な技術を守っていただけでは評価されない。また、ごく一部の名の売れた人が評価され高く販売されるが、機械化の流れもあり、技術を正に評価される環境が厳しくなっていると感じている。

(学園の方針)

和裁など技術者が社会から評価され収入に結び付く市場へのアプローチの方法なども研究し、そのスキルを学ぶことができる講習会なども実施して学べるようにしていきたいと考えている。

基準 7. 学生支援

●特待生について

特待生制度で授業料を軽減するのではなく、教員を入れて育てた方が良いのではないか。

(学園の方針)

特待生制度は、将来、伝統技術の指導を担う人材の支援と育成を目的に制度を定めた。在学中に技術を身に付けることとあわせて指導を意識して修業年限中過ごすことができる環境を整えることで、将来の教員の育成を図っていききたい。

●給食について

個々の食事の趣向も多様化しており、かつアレルギーの対応など年々大変になるのではないか。

(学園の方針)

栄養価のバランスを考慮しつつ、食事自体を美味しくすることで残食を減らすことに繋げている。また、見た目も大事で、給食の時間はできるだけ楽しい時間を提供することに心掛けている。また、アレルギーについても命にかかわることなので慎重に対応していききたい。

基準 8 卒業生支援・連携

特になし

基準 9 施設・設備

特になし

基準 10 学生募集と受け入れ

●中部技能フェスティバルで和裁ブースで着物の袖付けを1時間でいかにきれいにすることができるかを競い合う催しがあった。そのような一般の人にも見てもらえる場所で和裁を発信することも必要ではないか。

(学園の方針)

和裁という仕事が身近でなくなっているため、様々な関係団体と連携しながら和裁の仕事の発信に取り組んでいきたいと考えている。

基準 11 財務

特になし

基準 12 法令等の遵守

特になし

基準 13 自己評価・学校関係者評価

特になし

基準 14 情報公開

特になし

基準 15 地域にひらかれた学校づくり

特になし